

hpf news

人とブナを
つなぐ 情報誌

HAMAMATSU
CULTURAL FOUNDATION

Vol.

26

2017 Autumn

特集1

11年ぶりの凱旋! 浜松コンクールの思い出、
そして「ショパンの達人」となった現在

ピアニスト **ラファウ・ブレハッチ**
インタビュー

特集2

「ハープ」その豊かな響きの魅力
素敵な音楽家との出逢いを求めて

ハーピスト **吉野直子** インタビュー



公益財団法人
浜松市文化振興財団
Hamamatsu Cultural Foundation



はじまりはいつも、 ヒトツの感動から。

価値観は人それぞれ違う。

具体的な数値や量を示して語る人もいれば、数値などではない性質的・包括的な感覚で判断する人もいるだろう。

音楽や舞台芸術など、ホールで開催されるコンサートにはチケット料金という具体的な数値、いわば定量的価値観が存在する。

事業運営という観点から見れば、この定量的な考え方で事業を創っていくことはどうしても避けられないのだが、本来、文化芸術の価値とは数値で表現することのできない“感性”、すなわち定性的な指標から生み出されるものではないだろうか。また、人それぞれが違う感性を持っているからこそ、価値観の違いが生まれ、文化芸術がさらに奥深いものに進化していくのではないだろうか。

私たち浜松市文化振興財団は、感性に訴えかける文化芸術を皆様にお届けしてまいります。

すべての始まりは、そう、ヒトツの感動から。



公益財団法人

浜松市文化振興財団

Hamamatsu Cultural Foundation

VOL.26 | 2017 Autumn

contents

04



[特集1]
ピアニスト ラファウ・ブレハッチ
インタビュー

08



[特集2]
ハーピスト 吉野直子
インタビュー

12



[のんびり、ゆっくり、みゅーじあむ vol.15]
子供のためのプログラム

14



オークラクトシティホテル浜松
ホテルクラウンパレス浜松

16



[楽器職人のいる街 vol.7]
(有) 富永工業所 富永 誠一さん

18



[コンサートにお出掛け、その前に...]
ヤマハミュージックリテイリング浜松店

20



[ちょっと気楽に、もっと音楽を]
三米アトリエ

24



[こだわりの食とともにコンサートの余韻を楽しむ。]
シンノスケ・オー 浜松店
四季旬膳 濱や

26



HCF Event Schedule

31



[お知らせ]
第10回浜松国際ピアノコンクール
いよいよ始動

今月の表紙



専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー
広告・写真・Web デザイン科1年
松島 亜実(まつしま あみ)

作品名「秋の森の演奏会」

浜松市は音楽の街として有名です。天竜の
山奥で紅葉の中、動物たちも楽しく演奏会
を開いている様子を描きました。

ピアニスト

ラファウ・ブレハッチ

R A F A Ł B L E C H A C Z | INTERVIEW

©Marco Borggreve

第15回ショパン国際ピアノコンクールの覇者であり、第5回浜松国際ピアノコンクール最高位受賞のラファウ・ブレハッチが10月4日、11年ぶりの浜松凱旋公演を行います。ブレハッチさんに浜松での思い出やプログラムについてお話を伺いました。

インタビュー・翻訳／高橋美佐



第5回浜松国際ピアノコンクール本選の様子

■10年ぶりとなる浜松公演。思い出深い町だと思いますが…

私が生涯で初めて滞在した日本の町が浜松です。2003年の浜松国際ピアノコンクールでの演奏が日本の皆さんとのファーストコンタクトでした。その後2004年、2006年と訪ねています。今年、また浜松に戻れると思うととても嬉しいです。

■その時の印象を覚えていますか？

覚えているのは…本当に素晴らしい記憶です。宿泊したホテルの部屋の窓からショパンの像[※]が見えたことです。ワルシャワにある彼の像とまったく同じだ、と思いました。異国の地日本で、ショパンの姿に再会したという思いです。感動的でした。それから聴衆の皆さんがとても心暖かかったこと。日本には最初からとても良い印象を持っているのです。



※アクトシティ浜松ショパンの丘にある「ショパン像」

■これまでの来日で、好きな日本食はありますか？

味噌汁、しゃぶしゃぶは大好物です。私だけでなく、家族もみんな、しゃぶしゃぶは大好きです。母と妹はお寿司も大好きで2006年に東京、浜松でよくいただきました。

■ポーランドにはお魚を生で食べる習慣はあるのですか？

都市部の日本食レストラン以外では、地元では生のお魚は食べないのです。私たちにとって日本食はちょっとエキゾチックですね。でも好きです。

■10月のプログラムについて伺います。バッハの「4つのデュエット」、これは2月にリリースされたばかりのCDに入っていますね。

やっと、バッハの曲のみで構成したCDで、大きな喜びを感じます。私にとってこの上なく重要な作曲家なので…私の音楽の勉強のスタート地点、それがヨハン＝ゼバスティアン・バッハのさまざまな楽曲でした。オルガン曲に魅了されたことがすべての始まりです。5歳か6歳の頃、私はオルガニストになろうと思っていました。

■教会にお祈りに通いながら、そう思ったのですか？

毎週日曜日にミサに参加していますが、そこでオルガンの音を聴き、両親の知り合いだった教会のオルガニストにお願いして、あるとき興味本位で弾いてみたのです。とても楽しかったのですが…なんというか、あの鳴り響く音の魅力…陶酔するような感覚は非常に大切なものでした。ピアノでバッハを演奏するとき、大切にしているのはあのオルガンの音の記憶なのです。今回のプログラムの最初に「4つのデュエット」をお聴きいただくのは、この最新のCDの世界に皆さんをお招きするためです。

■ところで、ブレハッチさんにとってバッハのCD録音は初めてですよね？

2005年のショパンコンクールのあと、ドイツ・グラモフォンでの最初の録音をバッハにしたいと考えていましたが、やはりショパンコンクールで優勝した



© Marco Borggreve

わけですから、まずはショパンで、ということで「24のプレリュード」にしたのです。バッハを録音するまで少し辛抱しました。でも結果は、それで良かったと思っています。

■バッハの同時代の鍵盤楽器はオルガンかハーブシコードで、ピアノはまだ普及していませんでした。現代のピアノでそれらの曲を弾くとき、注意される点がありますか。

オルガン曲とピアノ曲の間には、いくつか特殊なつながりがあります。特にバッハについて言えば、私はピアノで弾くときにもオルガン式のレガートを用います。私はオルガンの基礎があるおかげで、純粋なピアノ奏法とは少し違うレガートを使いこなすことができます。

■バッハ、ベートーヴェン、ショパンという今回のラインナップのなかで、いちばん苦勞しそうな曲はどれですか？

難しいご質問です。今回お聴きいただく「ピアノ・ソナタ第3番作品2の3」は、疑う余地なく素晴らしいソナタで、「ロンド ト長調作品51の2」と合わせて、古典派奏法の良さをお伝えできれば、と思います。前半のベートーヴェンと後半のショパン、それぞれのピアノ・ソナタに対するアプローチの違いに興味を感じてくださるのではと期待しています。スタイル、ハーモニー、様々な角度から違いを意識して味わうことができます。皆さんのご理解を助けられるかどうかが私の課題です。

■2005年のショパンコンクール優勝により、ブレハッチさんの印象は音楽ファンにとって「ショパンの達人」ともなっています。ショパン探求に関して、コンクール後の12年間で感じるご自身の進化はありますか？

進化…そう捉えると、いま自分は正に進化の最中だと思います。作曲家と常に対話をしている感覚、と言えいいでしょうか、彼が何を感じているのか、なぜ心が揺れているのか、ということ、音を通して受け止めていくようなプロセスです。今回演奏する「ピアノ・ソナタ第2番」は2年ほど前から本格的な準備を始めました。作曲家の感動や意図を理解でき、それを生き生きと再現できるか。そこに不自然さが生じないように、私自身の直感、人格や経験、場合によっては冒険を織り込んでゆく。この作業はショパンに限らず、全ての曲に同じように対峙しているつもりです。

■ショパン自身は39歳で夭折しており、いわば彼の晩年と近い年齢のブレハッチさん。ご自身の年齢的な成熟がもたらす変化はありますか？

年齢的な要素は大切ですが、最も大事なものはセンシビリティ、理解力そのものではないでしょうか。もちろん、同じ曲を繰り返しステージで演奏することにより理解が生じることもあります。例えば私の場合、10年前にショパンの「幻想ポロネーズ」を演奏し、しばらく後の2010年に演奏した時に興味が目覚めた点がいくつかあり、以前とは異なる奏法にしたのです。そういった変化が起こることは素晴らしいと思いますし、演奏家が年齢を重ねることで、聴衆にその変化をお見せできることは、大きな喜びですね。

■いずれ教師としてのお仕事やコンクールの審査員などに興味はありますか？

教師というのは責任の大きい仕事です。現在の

私には残念ながら時間がありません。自身の演奏のために集中力のほとんどを注ぎ込まなければなりません。マスタークラスの形でなら可能かもしれませんが、音楽院の教師職は現状無理ですね。コンクールの審査員という仕事も、実はそのための技能を要求される職務です。また長い期間拘束されるので、事実上練習ができなくなってしまいます。将来的には決して興味のないことではありませんが、少し先の話になりそうです。

■ブレハッチさんを尊敬する日本の若者に何かアドバイスをいただけますか。

2005年のワルシャワでのコンクール以降、生活のバランスを保つことにとっても気をつけています。今でもコンサート活動が過剰にならないよう年間で50回程度に抑えています。当たり前ですが生活して人間として成長する時間、そして時には休養の時間を切り詰めないように。家族や友人と過ごす時間も人生にはとても大切なものです。そうやってバランスを保つことで、どのような曲と向かい合う場合も、きっとその曲により近づくことができるようになりますよ。

■最後に、お知らせがあります。日本で最近出版された、ピアノコンクールをテーマにした「蜜蜂と遠雷」という小説が、国内の主要な文学賞を二つ受賞しました。作家の恩田陸さんは浜松国際ピアノコンクールを取材され、ブレハッチさんの最高位受賞、その後のショパンコンクール制覇の流れにインスパイアされた、とおっしゃっています。私たちはこの小説がきっかけとなり、より音楽ファンの層が広がることを期待しています。

それは知りませんでした。お知らせ、ありがとうございます。良いニュース、嬉しいニュースですね。作者の方について、私も調べてみます。

■再会を楽しみにしています。それまでどうぞお体にお気をつけて。

私も、皆さんとの再会が待ち遠しいです。良い演奏をいたします。それでは、10月に。



©Marco Borggreve



ラファウ・ブレハッチ

1985年ポーランド生まれ。2002年第5回A・ルービンシュタイン国際青少年ピアノ・コンクール第2位、2003年第5回浜松国際ピアノ・コンクール1位なしの第2位など、世界中の様々な音楽祭やコンクールで数々の賞を受賞。2005年第15回ショパン国際コンクールでは、

優勝を果たすとともに、マズルカ賞、パロネーズ賞、コンチェルト賞、オーディエンス賞、ソナタ賞を受賞するという快挙を成し遂げた。今までに、ゲルギエフ指揮／マリンスキー歌劇場管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックとの共演のほか、世界的名指揮者の下で一流オーケストラとの共演を果たす。彼の演奏は、世界中の音楽批評家や聴衆を熱狂させ、絶賛を博している。

アクト・プレミアム・シリーズ2017 ～世界の名演奏家たち～ Vol.2

ラファウ・ブレハッチ<ピアノ>

2017年10月4日(水) 19:00開演 **チケット好評発売中!**

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席指定: S席6,000円 A席5,000円
学生席1,000円(24歳以下・当日指定)

J.S.バッハ:《4つのデュエット》

ベートーヴェン: ロンドト長調 Op.51-2

ピアノ・ソナタ 第3番 ハ長調 Op.2-3

ショパン: ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 Op.35「葬送行進曲」ほか

- 特別協賛: オリックス グループ
- 文化事業課: 053-451-1114

ハーピスト

吉野直子

インタビュー



6月29日 ご自宅兼練習所にて 文・撮影／（公財）浜松市文化振興財団

11月27日、アクト・プレミアム・シリーズ2017の第3弾としてご登場いただくのは、ハーピストの吉野直子さんとホルン奏者のラデク・バボラークさんです。イスラエルのハープコンクールで優勝して30年、音楽家としての今までとこれからの活動について、吉野直子さんにお話を伺うことができました。

■ハープ奏者となったきっかけを教えてください。

母がハープ奏者でしたので、生まれた時からハープが身近にありました。6歳の時、父の転勤でアメリカ・ロサンゼルスに行き、母がスーザン・マクドナルド先生に師事したのを機に、私も一緒に教わったのが始まりです。それまで、おもちゃのように触って遊んだりはしていましたが、レッスンを受け始めたのはそこからです。3年半ほどで帰国しましたが、マクドナルド先生とすごく相性が良く、家では母に見てもらい、長期の夏休みなどに渡米して教わっていました。

■海外で音楽を学んだことの良さはどんなところでしょう。

アメリカで教わった音楽の先生たちは、全体的にだらかで伸び伸びしていて「褒めて伸ばす」というタイプ。演奏の場でも楽しくやればいい、という感じで。それが私には合っていましたね。もし日本でハープを習っていたら、違う道に行っていたかもしれません。

■一方で、大学は音楽ではなく「美術史」を専攻されたのですね。

小さい時から周りに音楽があって、アメリカではホームパーティや地域の催し物、子供のためのオーディションなど、演奏の機会がたくさんありました。ハープ奏者を「仕事として選んだ」というよりは、そんな環境の中で、帰国後も普通の学校に行きながらレッスンを受け続け、高校3年生でコンクールに優勝したことで“だんだんと日本での演奏活動が忙しくなった”という感じなのです。もし音大に行くならマクドナルド先生のいるインディアナ大学しか考えていなかったのですが、先生も母も「好きなことがあるなら音楽以外の世界を経験したら」と。ごく自然に普通の大学を選び、好きだった美術を専攻しました。

■ハープはとても大きな楽器ですが、持ち運びのは大変でしょうね。

楽器自体の重さは40kg弱ですが、国内の移動は専門の運搬の方をお願いしています。車移動の場合は、ソフトカバーをして横に寝かせた状態で運びます。飛行機の場合は、ハードケースに入れるのですが、そうすると100kgほどの重さになってしまいます。海外では、楽器を借りることもありますが、良い状態の楽器でないことも多いので、自分のハープを持って行くこともしばしばあります。現地でレンタカーを手配して楽器を積んで自分で運転するなど、手間がかかり大変ですが、自分のハープを使えるのは嬉しいですね。



台車にハープを載せたところ。これがあると、自在に運ぶことができる。

■指で直接はじくハープ奏法ならではのご苦労があるのでは？

響きが豊かな楽器だけれど、弦が振動している間しか音が続きません。一回はじいて指を離すと、それ以上音を長く伸ばせませんし、逆にスタッカートみたいな短い音も難しいです。ハープは指の使い方やはじき方、はじくスピードで微妙に音が変わるの



が面白くもあり、難しいところでもあります。指が固くなると音も硬くなってしまいますので…時々お湯で指先をやわらかくしたり、固くなった指先を紙やすりで手入れをしたりしますが、他にはこれといった手や指の特別なケアはしていません。

■ハープは美しい音色と優雅に弾く姿が特に印象的です。

自分で弦を直接触って音を出す楽器なので、繊細で色々な音色（おんしよく）が出せます。豊かな響きを聴きつつ微妙な色合いを、実際に目で見て味わって頂きたいですね。今回のプログラムはホルンとのデュオがメインですが、お互いのソロもあります。また、ハープにはペダルが7本あって、シャープやフラット、つまり半音上げたり下げたりを足で操作し



ハープの弦は47本。赤と黒、シルバーの3色からなる。赤がC（ド）、黒がF（ファ）。最近では、吹奏楽でもハープパートを含む曲があるのだとか。



左/奏者側からハープを見たところ。共鳴胴（響胴）から豊かな響きが生み出される。観客側からはなかなか見られない角度。

右/足元のペダルにも注目。変調する時に使う。楽器を持ち運ぶ時には折り畳めるようになっている。

ます。転調が多い曲では、両足をかなり忙しく動かしながら演奏したりします。オーケストラだと横の方にいるので客席からは見えにくいですが、今回はデュオリサイタルですから、そのあたりの様子も見えるかもしれませんね（笑）。

■今回、共演のラデク・パポラークさんとはデュオ作品集もリリースされていますね。

ラデクさんは今、世界で一番上手なホルン奏者だと思います。最初の出会いは、松本でのサイトウ・キネン・オーケストラでした。若い時から「天才」と言われてきた彼が20代の頃から、小澤征爾さんの指揮のもとで、一緒に演奏してきました。ホルンは、コントロールとか音を外さない事がかなり難しい楽器と言われるのですが、彼が吹くと「こんなにホルンって簡単なのかしら?」と。音色もすごく柔らかくて全てが自然なのです。彼とはお互いにあまり考えなくても自然に音楽が流れるというか…これは簡単なように見えて一番難しいことなのですが、相性が良かったのだと思います。たびたびデュオやオーケストラなどで一緒にしています。

■ホルン以外で今までにデュオなどで共演してきた楽器は？

共演のチャンスが多い楽器はフルートですね。モーツァルトの有名な「フルートとハープのための協奏曲」をはじめ、デュオ作品がたくさんあります。あとはヴァイオリンなどの弦楽器、そして珍しいところではトランペットやコントラバスなど、いろいろな楽器と共演してきました。ただ、曲のレパートリーの有無や楽器との相性はもちろんありますが、一番大事なのは、その人のもっている音楽が素敵かどうか、だと感じています。お互いの楽器の音色にどうやって合わせられるかという作業はすごく楽しいですし、

一緒に創り上げる時間を共有できる素敵な音楽家に出会うと、「この人とやりたいから何か曲がないかしら」というふうに繋がっていくのです。

■これからの夢や目標を教えてください。

コンクールから30年という節目を迎えたのを機に、新しくCDのレーベルを立ち上げました。17歳でコンクールに出て、演奏活動が続けてきて、気持ちは変わっていないのですが、ふと気が付けば周りに下の世代が増えていて(笑)。20代で弾いてきた曲が、少し違って深く見られるようになっていました。これからは「大事にしたいと考えているものをじっくり掘り下げていきたい」と思ったとき、「今の自分」が残したいものを録音するには自分でやるのが一番良いと思ったのです。去年、今年と1枚ずつ出してきて、まずは5年続けようと思います。そして、これからも出逢いを大切にしながら、新しいことも取り入れていきたいと思っています。

■浜松のお客様へメッセージを。

「ホルンとハープ」の組み合わせは珍しいと思いますが、バボラークさんの音色はすごく柔らかくて美しく、ハープとよく合います。私たちの音楽的な会話を楽しんでください。浜松は音楽と縁が深い街。私たちも楽しみにしています。



現在吉野さんが使っているのはアメリカの「ライオン&ヒーリー社」製のハープ2台。支柱の最上部には王冠、支柱と響板、ベースと脚部には豪華な装飾が施されている。演奏会が連続で2ヶ所ある時など、別々の会場へ楽器を送っていただくこともあるのだとか。



吉野 直子 よしの なおこ

ロンドン生まれ。6歳よりハープを学び始める。1981年に第1回ローマ国際ハープ・コンクール第2位入賞。1985年には第9回イスラエル国際ハープ・コンクールに参加者中最年少で優勝。これまでに、ベルリン・フィル、イスラエル・フィルなどのオーケストラや、アーノンクール、メータ、小澤征爾など国内外の著名オーケストラや指揮者と共演を重ね、リサイタルも数多く行っている。また、世界の主要音楽祭にも度々招かれ、常に好評を博している。室内楽の交流も幅広く、クレーメル、V.ハーゲン、今井信子などと共演を重ねてきた。レコーディング活動も活発で、これまでにテルデック、フィリップス、ソニー・クラシカルほか多数。最新盤はオーヴェルニュ室内管との協奏曲集 (Aparte) と「ハープ・リサイタル2 〜ソナタ、組曲と変奏曲」(grazioso)。国際基督教大学卒業。

www.naokoyoshino.com/

ACTIV Premium Series アクト・プレミアム・シリーズ2017 ~世界の名演奏家たち~ Vol.3

ラデク・バボラーク〈ホルン〉 & 吉野直子〈ハープ〉

2017年11月27日(月) 19:00開演 チケット好評発売中!

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席指定:S席5,000円 A席4,000円

学生席1,000円(24歳以下・当日指定)

クーツィール:ホルンとハープのためのソナタ Op.94

ドヴォルザーク:我が母の教えたまいし歌 ほか

- 特別協賛:オリックス グループ
- 文化事業課:053-451-1114

子供のためのプログラム

浜松市楽器博物館館長 嶋 和彦

高齢化、少子化と日本が抱える大きな問題は、まだ解決策が見えてきません。人工知能、ロボットでその問題を解決しようとの研究開発がすさまじい勢いで進んでいます。明るい未来が保障されているとは言えないのが正直なところでしょう。明るい未来を作るのは誰か？はっきりしていることは、人間であり、今の子供たちである、ということでしょう。ですから、子供たちを育てる、よい教育をする、というのはとても大切なことです。明治維新で、また戦後の復興で、日本は素晴らしい教育制度を作って実践してきました。教育こそ社会の要。それはいつの世も変わりません。

浜松市楽器博物館は、楽器メーカーでもなければ音楽学の研究専門機関でもありません。また大学付属の研究所でもありません。博物館ですから、資料、つまり楽器やその関連資料を収集保存し、調査研究して、教育普及に役立てるということが使命です。見学は誰でもできますし、様々な催しにも参加できます。博物館から発信する情報もあれば、利用者が自らの学習で得る情報もあるでしょう。博物館は人々が自分の生涯を通じて学習できる場であり、学習のための資料が揃っている文化の館なのです。学校とは別の、年齢に関係なく利用できる、自己学習の場なのです。

さて、未来を担う子供たちのために、楽器博物館は2つの大きなプログラムを用意しています。ひとつは小学校と連携して開催している移動楽器博物館「わくわく楽器ランド」、もうひとつは小学生対象の世界の楽器演奏入門ワークショップです。

移動博物館が始まったのは楽器博物館がオープンして5年後の2000年（平成12年）からで、毎年市内の小学校数校で開催しています。多い時には年間10校以上、少ない時でも4～5校で、希望を取ってできるだけ博物館から遠い学校を優先してきました。当時、総合的な学習時間というのが各校にあり、教科をまたいで様々な取り組みが各校独自でされていたわけですが、「楽器＝音楽科」という枠組みを超えて、楽器＝社会科、楽器＝理科、楽器＝図画工作科というように、世界の楽器を



移動博物館 インドネシアの楽器「アंकフルン」をみんなで演奏。



移動博物館 世界の楽器のイラストの前で楽しいお話。



通して、その国の音楽や暮らし・楽器のデザイン・材料など「楽器をきっかけとして国際理解を深めましょう」というのを目的とする取り組みにしたのです。決して音楽が好きな人だけのためではなく、文化のひとつである音楽、そして音楽を奏で、目に見える造形物である楽器を通して、「世界を知りましょう！」というのが一番大切な目的なのです。

そして、もうひとつのプログラムであるワークショップ。楽器ですから、やっぱり演奏してみたいですね。ピアノやフルート、ヴァイオリンなどは、見たり触ったり習ったりする機会はいくらでもあります。けれども、そうではない楽器もたくさん

あります。日本の箏、モンゴルの馬頭琴、インドネシアのガムラン、アメリカのバンジョー、アフリカの親指ピアノ、韓国のチャンゴ、ポルトガルのタンバリンなどなど。どれもこれも素晴らしい音楽を奏でる楽器で、その国の人々が愛している楽器です。演奏してみればその素晴らしさに気づきます。大人と違って子どもの心は素直ですから、素晴らしさをすぐに感じ取ります。演奏方法だけではなく、楽器や音楽に込めたその国の人々の願いも学びます。今年は企業メセナ活動として東京のホテルオークラ東京からの助成金もいただいて開催します。

心の柔らかな子供たちのためのプログラム。その子たちが大人になる頃の未来へ向けての地道な活動を、博物館は実践し続けているのです。



世界遺産の影絵芝居皮人形ワヤン・クリをボール紙で作って上演。

浜松市楽器博物館

開館時間 9:30-17:00

休館日 毎月第2・4水曜日(祝日の場合は翌日、8月は無休)
12/29-1/3、施設点検等の日

観覧料 大人800円 高校生400円

中学生以下・70歳以上・障害者無料

TEL.053-451-1128 HP <http://www.gakkihaku.jp>



Okura
ACT CITY HOTEL
HAMAMATSU

オークラアクティシティホテル浜松

Okura Act City Hotel Hamamatsu



アフタヌーンティーセット 2,200円(税金・サービス料を含む)

ホテル2階にある、開放的なカフェレストラン「ザ・シーズンカフェ」のおすすめは、なんといっても“アフタヌーンティーセット”。

まずは、種類豊富な紅茶リストからお好きなものをお選びいただきます。紅茶を淹れる際の湯の温度や、蒸らし時間などのルールである“ゴールデンルール”を忠実に守り、その茶葉に合った淹れ方で丁寧に淹れます。きっとお好みの紅茶に出会えるはず。その後運ばれてくるのは、3段のスタンドからなるアフタヌーンティーセット。1皿目に、「レストラン フィガロ」のシェフお手製のサンドウィッチや彩り野菜のピクルスをお召し上がりいただきます。ホテルメイドのスコーンは、季節に合わせた2種類の味をご用意。地元浜松のジャムアーティスト 揚張あや子さん特製の、フルーツや野菜を使ったジャムをつけて食べるのがおすすめです。そしてパティシエによるスイーツでしめくくり。

そのすべてに優しい紅茶のお味を合わせて、ゆっくりと、優雅な時間を過ごしてください。

ザ・シーズンカフェ

浜松市中区板屋町111-2 オークラアクティシティホテル浜松2階

TEL.053-458-1233

【営業時間】11:00～17:30(ラストオーダー 17:00)

※アフタヌーンティーセットは、12:00～16:00の間での数量限定販売です。



ザ・シーズンカフェ



中国料理 鳳凰 秋の健美薬膳ランチ お1人様 3,500円(税サ込)2名様より ※写真はイメージです。

中国料理の薬膳と言えばホテルクラウンパレス浜松の最上階にある中国料理 鳳凰の岡部 悟料理長を思い浮かべるのではないのでしょうか?国際薬膳調理師と高級栄養薬膳師の資格を持ち、栄養薬膳名店としての証書も授与されております。さらに中国伝統医学に基づき、日本人の体質に合わせた美味しく身体に優しい薬膳料理の研究に努めた成果が認められ、平成28年度厚生労働大臣表彰「現代の名工」を受賞致しました。「美味しくって身体にイイ」を体験しませんか。

ホテルクラウンパレス浜松 中国料理 鳳凰 秋の健美薬膳ランチはお1人様3,500円(税サ込)2名様より。ランチは11:30～14:30(ラストオーダー 14:00)
毎週水曜日はハッピーデー。楊貴妃ランチ・薬膳ランチが15%OFFとなります。



中国料理 鳳凰 料理長
厚生労働大臣表彰
「現代の名工」受賞
岡部 悟

中国料理 鳳凰

浜松市中区板屋町 110-17 ホテルクラウンパレス浜松 14階
TEL.053-454-0632

【営業時間】 ランチ/ 11:30～14:30(ラストオーダー 14:00)
ディナー/ 17:30～21:30(ラストオーダー 20:30)

楽器職人のいる街

vol.
07

浜松市内には多くの楽器産業が集まっていますが、高い技術力を持った楽器職人も多くいるのをご存知でしょうか？
本シリーズでは、楽器産業のこれまでを支えそしてこれからを見つめる職人たちを紹介し、浜松市のさらなる発展の芽を探ります。

ピンチをチャンスに

高校卒業後、自動車製造業で塗装を担当していましたが、このままでいいのかと感じて、退社。オーストラリアへ行き、現地のハングリー精神を持った人たちにたくさん出会い影響を受けました。帰国後、二輪・四輪の部品製造をしていた実家を継ぐことに。少し経って2008年に起こったリーマンショックでは、世界の大企業と同様、うちのような小さな町工場も仕事が減ってしまい、大きなあおりを受けました。ただ、私の中ではピンチというよりチャンス。空いた時間を使って何か新しいことができないだろうかと考えました。

(有) 富永工業所

富永 誠一さん

たくさんの音孔をキーでふさいで音を出す木管楽器の中で、クラリネットやサックスは「シングルリード」と呼ばれる一枚のリード（木の薄片）を振動させて音を出します。今回はリードをマウスピースに固定させ、振動を楽器に伝える重要な部品「リガチャー」の開発に尽力されている富永誠一さんにお話を伺いました。

特殊技術を生かして

自らサクソフォンを吹いていて「演奏以外でも目立ちたい」と以前から思っていました。そこで思いついたのが“色付きリガチャー”。しかし、探してもどこにも売っていません。そんなある日、バイク部品の試作が手元に来た時に、鮮やかな青い塗装に目が留まりました。それがアルミの着色技術



現在作られている「セイバー」は全9色。とてもカラフル。



上／リガチャーの形になる前の部品。一枚のアルミ板から切り出す。
下／左が真鍮製リガチャー、右がアルミ製リガチャー。アルミ製は色が剥げることはない。ねじもアルミ製で丈夫。



製造工程のひとつを終えると、必ず富永さんによる調整をして次の工程へ。アルマイト処理は金属の凹凸や傷が塗装に影響してしまうため、丁寧にやすりをかける。



アルミ加工の機械は、古いものでもまだ現役で活躍している。

「アルマイト処理」というもの。これを“色付きリガチャー”に応用できないかと考えたのです。開発の中で必要となったアルミ加工の専門的な技術は、市内の企業に相談。皆さん好意的に協力してくれました。また試作品は、自分はもちろんプロの演奏家にも吹いてもらい、性能の面で数値的な裏付けを取ることで自信をもってお勧めできる製品に仕上がりました。アルミ製のリガチャーは、振動を伝える速度が速く、初心者や高齢の方でも楽に音が出せます。従来の真鍮製のリガチャーとは良い意味で性能が違うため、販売当初は理解してもらうのに苦労しましたが、現在は全国の楽器店で取り扱っていただけるようになりました。

浜松生まれのリガチャーを世界へ

“色付きリガチャー”は「say B[♭]（セイバー）」と名付けました。「言葉を話すように、楽にB[♭]（ド）を出す」という意味があります。「セイバー」は、経済の低迷の中でも新しいものを作り出そうという「やらまいか精神」と、音楽人口の多い浜松の土地柄が生んだ製品。現在は市内の中小企業13社との連携に

よって作り出されています。

最近では浜松市内の楽器産業が集まってアメリカで開催する見本市にも参加しました。海外のアーティストや音楽関係者の方々からの意見を活かし、デザインや品質をさらに発展させていきたいと思えます。



富永 誠一 とみながせいイチ

昭和44年生まれ。浜松市出身。学生時代は浜松工業高等学校吹奏楽部でサクソフオンを担当。自動車製造会社で塗装を担当した後、家業である富永工業所（二輪・四輪部品製造）を継ぐ。リーマンショック後の低迷する業績の中、リガチャー製作を開拓。現在は世界も視野に入れ、さらなる改良と普及に邁進する。「say B[♭]（セイバー）」で「2015グッドデザインしずおか」大賞（知事賞）受賞。

ドデザインしずおか」大賞（知事賞）受賞。

私の師匠

浜松市内の楽器職人たち

高い技術と専門性、「やらまいか精神」で挑戦を続ける先駆者の皆さんに育てていただきました。

（有）富永工業所／工房誠兵衛（say B[♭]）

浜松市浜北区新原2581-1
TEL.053-589-8377 FAX.053-589-8350

コンサートにお出掛け、 その前に…

vol.17



[ハープ]

今日オーケストラで用いられるハープは「グランドハープ」や「ペダルハープ」、「ダブルアクションハープ」などと呼ばれています。グランドハープの形や色、楽器の装飾などは作られたメーカーや種類によって様々ですが、重さは大体40kg前後、高さは180～185cm位です。弦は一般的には47本（46本のももある）で高い音になるほど細く短くなっています。弦の並びはピアノの白鍵と同じで低い方からド・レ・ミ・ファ…と連続して並び、6オクターブ半の音域があります。音の目安としてドの音は赤色、ファの音は青色（黒色）になっています。

ハープの起源は石器時代にまでさかのぼると言われ、狩りに使う弓の糸で遊んだことが始まりなのだそうです。現在よく使用されるハープは、1810年にフランスの楽器職人のS.エラールの手によって開発されました。下部にペダルが7本ついていて、ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シの各音に一つずつ繋がっています。ペダルを踏むことで弦の長さが変わり、同じ音の弦を一斉に変化させることができます。それまでのハープは弦を半音のみ上げることができましたが、特定の調性しか演奏できないという制約があったため、エラールがどの調でも演奏可能な「ダブル・アクション・ペダル・ハープ」を考案し、特許を取得しました。このアクションはペダルを2段階踏み込むと“シャ-

ブ”に、1段階で“ナチュラル”に、踏み込みなしでは“フラット”にすることができ、1弦で3つの異なる高さの音を出すことができます。これによってハープの活躍の場は大きく広がり、様々な曲で取り入れられるようになりました。

ハープの音は“癒しの音”としてしばしば音楽療法にも用いられています。独特の「グリッサンド」奏法は何ともいえない印象的な響きがします。ハープはよく白鳥に例えられることをご存知でしょうか？それは優美な見た目や音色とは裏腹に、演奏者にとってはとても過酷な楽器だからです。2本の腕は優雅に弦をはじいている一方で、足元は常に忙しくペダルを操作しています。そのため水面下で必死にバタ足しつつ泳ぐ白鳥に例えられているのだそうです。

11月にはアクトシティ浜松中ホールで、世界的ハープ奏者の吉野直子さんと元ベルリン・フィルのソロホルン奏者でもあるラデク・バボラークさんの共演が実現します。吉野さんの幻想的なハープの音色とバボラークさんの驚くほど繊細で柔らかな音色の組み合わせを肌で感じ、至福のひとつときを過ごしてみたいかがでしょうか。

[3F 鍵盤・弦楽器売場] 田端 ひろこ



ヤマハミュージックリテイリング 浜松店

10時30分～19時 [定休日] 水曜日
〒430-0933 静岡県浜松市中区鍛冶町321-6
[2F 楽譜・CD売場] TEL.053-454-4419
[3F 鍵盤・弦楽器売場] TEL.053-454-2770

店員さんに聞きました！ おすすめCDのご紹介



ショパン: ポロネーズ集
ラファウ・ブレハッチ
UCCG-51089 ¥1,836 (税込)



バッハ・リサイタル
ラファウ・ブレハッチ
UCCG-1762 ¥3,024 (税込)

今年、最も話題となった小説『蜜蜂と遠雷』。著者の恩田陸が“ピアノコンクールを小説のテーマに決めるきっかけとなった”と語ったピアニストがラファウ・ブレハッチです。その彼が10月に浜松へやってきます！ブレハッチにとっては2003年に入賞した浜松国際ピアノコンクール以来、11年ぶりの凱旋公演。盛り上がること間違いなしです。今回はそれに先立ち、ブレハッチについてお話したいと思います。

ブレハッチは1985年ポーランドに生まれ、4歳でオルガン、5歳からはピアノのレッスンを受けて育ちました。音楽学校や音楽大学の道へ進み、2003年浜松国際ピアノコンクールで受賞するまでもに数々のコンクールで賞を獲得してきました。この彼の参加した第5回浜松コンクールの後、第6～9回にわたって作家・恩田陸が観覧に訪れており、『蜜蜂と遠雷』の作品へとつながったわけですが、小説の登場人物を彷彿とさせる驚きのエピソードがあります。このコンクール参加時点までブレハッチの自宅のピアノはアップライトで、(1位なしの)2位を受賞し獲得した賞金で初めて自分のグランド・ピアノを手に入れたといいます。そして2005年に第15回ショパン国際ピアノコンクールで優勝を果たし、ショパンの祖国ポーランド出身者としてはツィマーマン以来、30年ぶりの優勝者となりました。

ショパン国際ピアノコンクールは、1927年の創設から90年近くにわたり開催され、優れたピアニストを多く生み出してきた歴史あるコンクールです。現在は5年に一度、ポーランドの首都ワルシャワで開催されています。

このコンクールでの華々しい優勝が鮮烈で、ブレハッチといえば「ショパン弾き」として認知されています。特に「ポロネーズ賞」「マズルカ賞」「コンチェルト賞」

「ソナタ賞」全ての副賞を受賞したことは、世間に衝撃を与えました。また、このコンクールに出場する前年、モロッコ国際ピアノ・コンクールに出場した際も、ことにマズルカとポロネーズの演奏を高く評価されて優勝しています。そこで、今回おすすめしたいのは彼のショパンを堪能できる『ポロネーズ集』です。

ポロネーズは、マズルカとともにポーランドの代表的な民俗舞曲ですが、そのルーツははっきりしていません。17世紀に入り宮廷の儀式や行列の行進のための音楽に採り入れられるようになり、中庸のテンポによる3拍子の独特のリズムで華やかな雰囲気盛り上げる役割を担いました。その後ヨーロッパ各地に広まってゆき、古典派に入ると様式として確立されました。ポーランドでもその影響を受けた作品は多くあり、ショパンは子供の頃からこれらの作品に親しんできたと思われます。『ポロネーズ集』は、ショパンの「祖国への愛」を感じ取ったブレハッチの音色を堪能できる1枚。ごく自然に、のびやかにピアノを響かせるブレハッチの真つぎな演奏をお楽しみいただきたいと思います。

そしてもうひとつのおすすめは、『バッハ・リサイタル』です。先に述べたように、ショパンで有名なブレハッチですが、音楽の道へと進んだ最初の一步、4歳から学んだオルガンは地元の教会でのことでした。彼自身「最も古い音楽の思い出は教会でオルガンを聴いたこと」と語っており、幼少時代から教会音楽、すなわちバッハの音楽に親しんできたことが伺えます。彼の音楽世界を構成したとも考えられるブレハッチのバッハ。その清廉な響きをどうぞご堪能ください。

[2F 楽譜・CD売場] 小木すみれ

ちよつと気楽に もつと音楽を 06

「音楽をもっと気楽に楽しんでほしい、日々の生活に音楽を」というテーマで、近場で気楽に音楽を楽しめる素敵な場所をご紹介します。



取材日／7月3日 文・撮影／(公財)浜松市文化振興財団

さん よね 三米アトリエ

この方に
伺いました！

三米アトリエ主宰
三浦京子さん



浜松市生まれ
海に囲まれた自然豊かな環境で育つ。
短大卒業後、地元の楽器会社へ就職。大正8年創業の3代続く商家に嫁ぐ。
2007年に実父と義母が相次いで病に倒れ、親族の介護を通じて「食」の大切さを再確認。
2011年より「丸喜屋商店」南隣にある「三米アトリエ」にて「だし教室」をスタート。
「食べることは生きること」調理師・食育インストラクターの資格も持つ。
現在、乾物屋の業務の傍ら、三米アトリエにて年間60回開催する食のワークショップと年に数回開催する衣食住・文化芸術に繋がるイベントを企画・運営。



三米アトリエ (三米商店)

昭和31年竣工。昭和の賑わいを今に伝える趣ある店舗。



小上がりの和室奥には坪庭があり、夏には涼しい風が通り抜ける。

「丸喜屋商店」の嫁として

私は、乾物・海産物を扱う「丸喜屋商店」の女将です。隣の店舗は「三米商店」という海産物問屋で、大正8年創業の長い歴史があります。「三米商店」は主人の実家で、店舗兼住居として昭和31年に義祖父が建てたものです。長い間稼働していたのですが、問屋業務を移転したため空き店舗となりました。その後、2階の住居部分に住んでいた義母が倒れ、建物をほとんど使わなくなっていた6年前、浜松の若手建築家と静岡芸術文化大学の学生に1か月間、建築に関するイベントの会場として貸し出したのが、この空間を外に開いていくきっかけになりました。

昭和の賑わいが蘇った瞬間

彼らは空き店舗に段ボール100箱もあった昔の書類や不要品の処分を手伝ってくれました。イベントではワークショップのほか、学生たちが作った雑貨や古い家具などを販売したり、古いものを活用する取り組みをしたり。店の奥の方で眠っていた古い家財道具などを洗ってホコリを落とすと、この店や町の“当時の賑わい”が蘇りました。若い学生さんたちとも触れ合って私自身もすごく刺激を受けま

した。義母が「もったいない」と捨てないでいたものがこんな風に再生する、生き返るんだと。それまではこの建物を「古いし、使い勝手も悪いし、この先どうしよう…」と不安な気持ちでしたが、他の古い建物に比べたら保存状態も良いし、自分の知識を生かして「衣食住のワークショップ（以下WS）」ができないかと思い立ち、このイベントの1か月後に「だし教室」を始めたのです。名前も「三米アトリエ」として、今では主に食の講座を月に6〜7回と衣食住のイベントを年に数回くらい開催するようになりました。11〜12月のおせちやお雑煮のWSも好評を得ています。



食のワークショップ「だし教室」の様子。月6〜7回の割合で菜膳、発酵食、だし教室などを開催している。



ライブCafe「バンジョー&アコーディオン」(Banj: 稲川 友則 Acc.: 柴田 貴子) 2015.10.11

年一度の「七タコンサート」から

文化芸術のイベントは10年前から浜松交響楽団さんが年に一度「七タコンサート」として丸喜屋商店の2階で開いていました。6年前、「隣でやろうよ!」と盛り上がりここを会場にしてみたら、建物のコンクリートに反響する楽器の響きが予想以上に好評で。以来、コンサートも年2〜3回やるようになりました。路面なので通りかかった方にも立ち止まって興味を持ってもらえるのが良いところです。

屋間でも聴けるイベントを

まちなかには、夜のライブやコンサートはたくさんありますが、屋間にしか出掛けられない主婦や子

連れのお母さんが気軽に音楽を聴ける場所も作れたらいいなと。管楽器のほか、二胡やジャズ、ライアー(竖琴)などのコンサートを開催してきました。私が興味を持った方や「ここで演奏したい」と言って下さる方をお願いしていて、10月は以前開催して好評だったバンジョー&アコーディオンの再演です。私自身も生の音楽が好きなので、楽しみにしているんです。

楽器作りWSはいつも盛況

楽器の街だからでしょうか、楽器作りに興味がある人が多いと感じます。昨年から開催している二胡のコンサートと一緒に楽器を作るWSを企画したところ、定員を超える盛況ぶりでした。次回のご案内



シンガーソングライター里地婦(さとちき)
二胡コンサート〜彼方の風〜 2017.5.25



二胡作りワークショップの様子。

をすると「次も教えて」とすぐにお問い合わせいただくことも。この会場のファン、楽器作りのファン、アコースティックな響きのファンがいっぱい。他県からお見えになる方もいるので「浜松の良さ、魅力を知ってもらえるチャンス」と思ってます。なかの色々なお店とコラボレーションできないか企画を考えたりしています。

情報配信できること 人とつながることの喜び

2013年、NHK・BSの『サラメシ』という番組の取材で肴町が取り上げられ、店の外観やだしを取って作る「我が家のお昼ご飯」が全国・全世界に配信されたんです。世界中の人にこの場所を見てもらえたことがすごく楽しくて嬉しくなりました。私の周りでは子育てがひと段落すると、目的を見失うなんて話もチラホラ。でも、「人生まだまだ、楽しいこと

あるよ」って言いたいですね。若い大学生と関わった時も「〇〇ちゃんのお母さん」じゃなくて「三米アトリエの三浦さん」として対等に接してくれることが新鮮でしたし、口コミやブログ、フェイスブックを通じて情報発信することで様々な世代の方ともつながりができました。実父や義母が倒れて「人生は思ったより短い」と思ったし、健康でいるために「日本の食文化をつないでいかなければ」ということも見えてきて。商売屋の長男の嫁として多少苦労もありましたが、今は伸び伸びとやらせてもらえて家族には本当に感謝しています。好きなことでつながると、自然と手伝いに来てくれる方も増えてきて、本当に「人は財産」ですね。

まちなかを元気にしたい

「三米アトリエ」を知らない方はまだまだたくさんいます。自然食や昭和レトロな風情のあるものに興味ある方10人のうち1人でもここに来てもらえれば嬉しい。何かのご縁で来てくれた方を心からおもてなしして、ファンを増やしていきたいです。関わっている色々なお店とつながって、例えば浜松城まで歩いて散策できる仕掛けを企画するなど、浜松のまちなかが楽しく元気を取り戻してくれると良いなと思っています。

この建物は、義祖父が「丈夫な建物を」と戦禍・震災を経て健在だった、今の静岡銀行浜松営業部を模して建てたもの。人を大切にしていた義祖父の想いも未来につなげていきたいと思っています。



丸喜屋商店で扱うのは乾物。昔ながらのかつお節、煮干し、椎茸など「だし」に欠かせない商品が並ぶ。

コンサート情報

ライブカフェ@三米アトリエ バンジョー&アコーディオン

バンジョー: 稲川 友則 アコーディオン: 柴田 貴子

2017年10月8日(日) 14:00開演
●入場料 大人2,000円 小・中学生1,000円
※1ドリンク付
※チケットは丸喜屋商店にて予約受付



三米アトリエ (丸喜屋商店となり)

※WS・イベントのある日のみオープン

〒430-0932 浜松市中区肴町 314-21
TEL.053-452-1713 FAX.053-452-1734
mail:k-i-miura@muc.biglobe.ne.jp

【丸喜屋商店 営業時間】
月～土曜日・祝日／9:30-18:30
日曜日／9:30-16:00 (月2回不定休)

「昭和レトロな乾物屋の嫁ブログ」
<http://sanyone.hamazo.tv/>

こだわりの食とともにコンサートの余韻を楽しむ。



二代目トヨハシーノ 880円(税抜)。ヨーグルトソースにベーコンとチーズをのせた、大葉の香りが爽やかなビザです。

シンノスケ・オー 浜松店

豊橋店に続く2店舗目として2016年3月にオープンした「シンノスケ・オー 浜松店」。
新鮮な樽生クラフトビール(地ビール)が豊富に揃う専門店です。

クラフトビールは、日本各地はもちろんベルギーやアメリカ産など、常時5～8種類をご用意。ビールの種類によって泡を立てずに注ぐのは、炭酸をあまり含まないようにすることで、ホップの風味や香りをより深く味わうためののだそう。ビールが苦手な方には、製造段階でフルーツをビールに漬け込んで作る、甘くてフルーティなクラフトビールもあります。ブログやフェイスブックで、その日に飲める銘柄を公開していますので、是非チェックしてみてください。飲み放題のコースもありますので、いろいろなクラフトビールを飲み比べてみるのもいいですね。ビールに合うフードメニューも充実。中でも自慢の一品は、独創的でバリエーション豊かなビザ。おつまみも種類豊富でビールが進みそうです。

店内にはオーナーが趣味で集めたという古本が沢山置かれており、ビールだけでなく本との出会いが生まれるのも、「シンノスケ・オー 浜松店」ならではの魅力です。気さくで明るいスタッフの間中さんとの会話を楽しみながら、居心地のいい空間で、お気に入りのクラフトビールを見つけてみてはいかがでしょうか。



スタッフの間中 健太さん

学生時代はサクセス奏者だったという間中さん。今は十分な練習時間が取れないので、残念ながらサクセスは封印し、休日は趣味の食べ歩きをされているそう。「階段を昇った先の2階のお店なので、初めての方は入りづらいかと思いますが、女性一人でも大丈夫。是非気軽に訪れてください!」と爽やかな笑顔で語ってくださいました。



シンノスケ・オー 浜松店

浜松市中区鍛冶町 1-43 2階
TEL.080-6960-9393
【営業時間】
火～金:17:30～最終入店 25:00
土日祝:14:30～最終入店 24:00
【定休日】月曜日(祝日の場合は翌火曜日休)
【ブログ】
<http://ameblo.jp/hamamatsu-shinnosuke/>
【フェイスブック】
<https://www.facebook.com/hamamatsu.shinnosuke/>



秋と思ったらこれ！「サンマ塩焼き」（価格未定）。

四季旬膳 濱や

昨年新たにリニューアルオープンした「四季旬膳 濱や」。肴町通り沿いのビルの階段を少し下った地下にあります。入口の扉を開けるとすぐ目に入る水槽の中には、大小さまざまな貝類が。もちろんメニューとして注文することができ、その場でそれぞれの貝類に合った調理をしてくれます。お刺身も新鮮で旬なものを地元の魚屋さんから仕入れ、時には知り合いの釣り師から市場に出回らない珍しい品種が手に入るときもあるそう。どんな種類の魚があるかは来店してのお楽しみです。秋頃の旬は脂が乗ったサンマや鱧（はも）。夏のイメージが強い鱧ですが、秋も美味しく食べられるとのこと。四季折々の美味しい旬の素材を味わうことが出来ます。

熊本県産の馬刺しは産地直送のスタッフ押しの一品。一般的には提供されない珍しい部位もあるので、好きな方はぜひお試しを。お食事の締めにはそばやうどんもあり、気軽に食べられて女性には嬉しいですね。そばは単品メニューとしてはもちろん、コース料理にも含まれています。

店内はカウンター席とテーブル席があり、仕切りをとれば大人数の宴会も可能です。掘りごたつ式になっているので落ち着いて過ごすことが出来そう。ジャズの流れる静かな雰囲気、ゆったりとお食事と会話を楽しむ大人にぴったりのお店です。



女将の優美さん

愛犬とのふれあいを大切にする優美さん。お仕事前に自宅のお庭やドッグランで一緒に遊んで、ご自身も癒されているそう。夏はジェットスキー、冬はスノーボードというアクティブな優美さんは、笑顔も素敵でパワフル！お話を聞くこちらも元気がもらえます。



四季旬膳 濱や

浜松市中区肴町318-26
MUSE肴町ビルB1F
TEL.053-457-7770

【営業時間】

月～木・祝日・祝前日 18:00～翌0:30
金・土 18:00～翌3:00

【定休日】日曜日

(公財)浜松市文化振興財団

イベントスケジュール

2017.9 ▶ 2018.1

HCFオンラインショップ

<http://www.hcf.or.jp/>

HCFオンラインショップをぜひご利用ください。

様々な公演のチケットが、24時間オンラインで購入できます。

- ★システム利用料0円・発券手数料0円
 - ★送料などの実費はかかりませんが、その他の手数料は一切なし。
 - ★クレジット決済 / 送料315円(全国一律)
 - ★代金引換 / 送料315円(全国一律) + 代引手数料315円(一律)
 - ★スマートフォン・タブレットからもアクセスできます。
 - ★直接アクトシティチケットセンター窓口にての購入(現金のみ)もできます。
- 詳しくはHPをご覧ください。<http://hcf.or.jp/>

ジュニアクワイア浜松 第23回定期演奏会

9.3(日) 13:30

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:500円 ※4歳未満入場不可
- 曲目:ひびかせうた / 信長貴富 ほか
- 文化事業課

TEL.053-451-1151



妊婦とお母さんのための

ゆるやかコンサート in天竜 Vol.1

9.7(木) 10:30~11:20

- 天竜壬生ホール
- 対象:赤ちゃん、未就学児をお連れの保護者の方。大人のみでも構いません。
- 高校生以上 1人500円
(Tel・来館申込7/18~)
- 出演:田上知穂(ソプラノ)
山村妙子(ヴァイオリン)
小池紘子(ピアノ)
- 天竜壬生ホール

TEL.053-922-3301



ジュニアオーケストラ浜松 第23回定期演奏会

9.10(日) 13:30

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:500円 ※4歳未満入場不可
- 曲目:幻想交響曲 / ベルリオーズ ほか
- 文化事業課

TEL.053-451-1151



特別收藏展

物心一如の俳人 原田濱人の心を紡いで

～演人・喬・あきゑ 三人展～

9.10(日)~12.10(日) 9:00~17:00

- 浜松文芸館(クリエート浜松5階)
- 入場無料
- 浜松文芸館 TEL.053-453-3933



第15回浜松市民文化フェスティバル

9.16(土)~9.18(月・祝)

■特別支援学校作品展

- アクトシティ浜松 市民ロビー ●観覧無料

9.17(日) 13:00

■吹奏楽トップコンサート

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席自由:一般1,000円 学生500円

※未就学児の入場不可



9.18(月・祝) 13:00

■民謡と舞踊の集い

- アクトシティ浜松 大ホール ●入場無料

9.24(日) 13:00

■浜松おどり

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席自由:1,500円 小学生以下無料



9.24(日) 13:00

■邦楽演奏会

- アクトシティ浜松 中ホール ●入場無料(要整理券)

9.30(土) 10:00~18:00 10.1(日) 10:00~17:00

■「絵・写・書・茶・花」

- アクトシティ浜松 コングレスセンター31会議室
- 入場無料(呈茶料400円 両日10:00~16:00)

10.15(日) 17:00

■バレエ・ダンスの祭典

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席自由:1,500円(当日券は200円up)

ア オ (9/1より発売)

10.15(日) 13:00

■小学校部門

- アクトシティ浜松 中ホール ●入場無料

10.29(日) 10:00

■浜松市民合唱祭2017

- アクトシティ浜松 中ホール ●入場無料

11.23(木・祝) 12:30(予定)

■第15回浜松市中学校総合文化祭[ステージ部門]

- アクトシティ浜松 大ホール ●入場無料

●文化事業課 TEL.053-451-1151

松竹大歌舞伎

9.23(土・祝) 昼の部13:00/夜の部17:30

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席指定:
一等席6,500円
二等席5,500円
夜の部幕見席2,000円(当日指定)
学生席1,000円(24歳以下・当日指定)
- ※未就学児の入場不可
- 演出:「狸々」「口上」「熊谷陣屋」
- 文化事業課
TEL.053-451-1114

ア オ ひ



©松竹

New
Artist
Seriesアクト・ニューアーティスト・シリーズNo.110
「奥田 弦 ジャズピアノ・リサイタル」

9.24(日) 15:00

- アクトシティ浜松 音楽工房ホール
- 全席自由: **完売**
- 文化事業課 TEL.053-451-1114
- 協賛: HAMANA
浜名湖包船運送株式会社

ア オ



劇団四季ミュージカル「アンデルセン」

9.25(月)・26(火) 18:30

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席指定:
S1席 **完売** S席(一般)8,640円 S席(学生・子ども)6,480円
A席(一般)6,480円 A席(学生・子ども)4,320円 B席3,240円
- ※学生・子ども=大学・専門学生以下(当日学生証提示)、
3歳以上有料(ひざ上不可)、3歳未満の着席観覧有料。
- 文化事業課
TEL.053-451-1114

ア オ ひ

オルガンミニコンサート No.85

9.28(木) 12:30(12:50終演予定)

- アクトシティ浜松 中ホール
- 入場無料 ※小さなお子様も入場できます。
- オルガン: 本田ひまわり
- 文化事業課 TEL.053-451-1151

東儀秀樹×古澤 巖×coba 全国ツアー2017
TFC55 LEVEL IV

9.29(金) 19:00

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席指定: **完売**
- 文化事業課 TEL.053-451-1114
- 協賛: S&L サーラグループ



東儀秀樹

©Ayako Yamamoto



古澤 巖

©Nobuyuki Aoki



coba

天竜区ふれあいコンサート

10.1(日) 14:00 10.22(日) 14:00

- 浜松市立二俣小学校体育館 ●浜松市立下阿多古小学校体育館
- 入場無料
- 出演: 中村ひとみ(ピアノ)
松尾圭子(フルート)
青木 倫(健康講座)
- 浜松市天竜区
ふれあいコンサート実行委員会事務局 TEL.053-433-6789

Premium
Series アクト・プレミアム・シリーズ2017
～世界の名演奏家たち～Vol.2第10回浜松国際ピアノコンクール開催記念イベント
ラファウ・ブレハッチ(ピアノ)

10.4(水) 19:00

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席指定:
S席6,000円
A席5,000円
学生席1,000円(24歳以下・当日指定)
- ※未就学児の入場不可
- 曲目:
J.S.バッハ / 《4つのデュエット》
ベートーヴェン / ロンド長調 Op.51-2
ピアノ・ソナタ 第3番 ハ長調 Op.2-3
ショパン / 幻想曲 へ短調 Op.49
夜想曲 第14番 嬰へ短調 Op.48-2
ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 Op.35「葬送行進曲」
- 文化事業課 TEL.053-451-1114
- 特別協賛: オリックスグループ ※特集1(P4~7)もご覧ください。

©Marco Borggreve



ゆるやかコンサート秋

10.5(木) 10:30~11:20

- 浜北文化センター 小ホール
- 対象: 赤ちゃん、未就学児をお連れの方。大人のみでも構いません。
- 高校生以上 1人500円
子ども無料(同伴の0才~中学生)
- 出演: 山村妙子(ヴァイオリン)
大場朋子(ピアノ)
- 浜北文化センター
TEL.053-586-5151



山村妙子



大場朋子

ハーモニイの饗宴(浜松市・ハノーバー市交流事業)

10.6(金) 18:45

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:
入場無料(要整理券)
※9/10よりアクトシティチケット
センター、浜北文化センターで配布
- 浜松市と同じく2014年にユネスコ
創造都市ネットワークに加盟した
ハノーバー市から少女合唱団を迎え、浜松市内合唱団との交流演奏会を
行います。
- 文化事業課 TEL.053-451-1151



©Claus G. Riedel

ゆるやかワークショップin天竜Vol.2

お母さんと赤ちゃんのエクササイズ

10.12(木) 10:30~11:30

- 天竜壬生ホール リハーサル室
- 定員:3ヶ月以上1歳未満の赤ちゃんとお母さんペアで20組(要事前申し込み)
- 大人ひとりにつき500円(来館・Tel申込み9/11~)
- 天竜壬生ホール TEL.053-922-3301

セクスイハイムpresents

辻井伸行 ユロフスキ&ロンドン・フィル
日本ツアー2017

10.13(金) 19:00

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席指定:S席22,000円
A席19,000円
B席16,000円
C席10,000円

※未就学児の入場不可

●曲目:

ブラームス/悲劇的序曲
ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番
[ピアノ:辻井伸行]

チャイコフスキー/交響曲 第6番《悲愴》

- 文化事業課 TEL.053-451-1114



©Yuji Hori ©Drew Kelley



©Patrick Harrison

第26回ハママツ・ジャズ・ウィーク

10.14(土) 12:30

■スチューデント ジャズ フェスティバル

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:500円
- ※3歳以下無料



10.15(日) 14:00

■佐藤允彦のジャズ目線じゃあ

- アクトシティ浜松 音楽工房ホール
- 全席自由:2,500円
- ※未就学児の入場不可
- 出演:佐藤允彦、加藤真一
村上寛、上杉亜希子



©Eri Harada

10.21(土) 14:00

■親子で楽しむジャズコンサート

- クリエート浜松ホール
- 全席自由:大人2,500円 小学生以下1,000円
- ※3歳以下膝上無料
- 出演:

モダンジャズカルテット~おかさんといっしょ+ケロボンズ
中川ひろたか、岡澤
大友剛、俵山昌之
江藤良人
ケロボンズ:増田裕子
平田明子



10.22(日) 13:00

■ヤマハジャズ フェスティバル

- アクトシティ浜松 大ホール
- 指定:S席8,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円
自由:4F席2,000円
- ※未就学児の入場不可
- Part1. "2 TENORS" featuring 三木俊雄&Eric Alexander
- Part2. 小野リサ with Brazilian Friends 2017
- Part3. 扶間美帆 m_unit

三木俊雄
©Kiyotaka Saitoエリック・アレキサンダー
©HighNote Records

小野リサ



扶間美帆

- ハママツ・ジャズ・ウィーク事務局 TEL.053-462-1125

500 ACT・ワンコインコンサート2017
鈴木大介(ギター)

10.19(木) 11:30(12:30終演予定)

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:500円(チケットレス)
- ※当日会場入口にて入場料をお支払いください。
- ※満席となった際は入場をご遠慮いただく場合
がございますので予めご了承ください。
- ※未就学児の入場不可

●曲目:

J.S.バッハ/前奏曲とロンド風ガヴォット BWV1006
ジョービン/イバネマの娘
ピアソラ/リベルタンゴ ほか

- 文化事業課 TEL.053-451-1114



©Matsunao Kokubo

オータムコンサートⅡ

10.22(日) 1回目10:30~/2回目14:00~

- 木下恵介記念館
- 入場料:500円
- ※8/20より木下恵介記念館にて販売
- 映画音楽家木下恵介の作品を、室内楽(ピアノ・チェロ・バイオリン・声楽)で楽しめます。
- 出演協力:トリオ・プリランテ
- 木下恵介記念館
TEL.053-457-3450



楽器博物館企画展

「小さな可愛い世界旅行~人形・切手の楽器たち~」

11.3(金・祝)~1.14(日)

- 楽器博物館 展示室
- ※常設観覧資料でご覧いただけます
- 「楽器を持った人形」と「楽器を描いた切手」が
世界から大集合。人形と切手で世界旅行を!
- 浜松市楽器博物館
TEL.053-451-1128



奥田弦ジャズワールド

11.4(土) 14:00

- 天竜壬生ホール
- 全席自由:一般2,000円
高校生以下500円
- ※5歳以上入場可
- 天竜壬生ホール
- TEL.053-922-3301 



みぶアーティストコンサート

11.23(木・祝) 13:30~16:00

- 天竜壬生ホール ●入場無料
- 公募した子どもから大人までの出演者が、ステージパフォーマンスを披露
- 天竜壬生ホール TEL.053-922-3301

浜松市指定有形文化財

「旧浜松銀行協会中村與資平セミナー」

11.26(日) 1回目13:30~14:45(建物案内+レクチャー)
2回目14:15~15:30(レクチャー+建物案内)

- 木下恵介記念館 ●定員:1回目、2回目各20名
- ※レクチャーは1回目と2回目の合同となります。
- 入場料:200円
- 木下恵介記念館 TEL.053-457-3450



ACT CITY Premium Series
アクト・プレミアム・シリーズ2017
~世界の名演奏家たち~Vol.3

ラデク・バボラーク(ホルン)&吉野直子(ハープ)

11.27(月) 19:00

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席指定:
S席5,000円
A席4,000円
学生席1,000円(24歳以下・当日指定)
- ※未就学児の入場不可
- 曲目:クーツィール/ホルンとハープのためのソナタ Op.94
ドヴォルザーク/我が母の教えたまいし歌 ほか
- 文化事業課 TEL.053-451-1114 
- 特別協賛:オリックスグループ ※特集2(P8~11)もご覧ください。



©Lucie Cermakova



©Akira Muto

オルガンミニコンサートNo.86

11.30(木) 12:30(12:50終演予定)

- アクトシティ浜松 中ホール
- 入場無料 ※小さなお子様も入場できます
- オルガン:米山浩子
- 文化事業課 TEL.053-451-1151

木下恵介生誕記念 特別上映会

12.3(日) 「陸軍」10:00~/「二十四の瞳」14:00~

- 木下恵介記念館
- 入場料:100円 ※10月15日より木下恵介記念館にて販売
- 木下恵介監督の誕生日(1912年大正元年12月5日)を記念して、映画を2作品上映します。
- 木下恵介記念館 TEL.053-457-3450

楽器博物館講座

楽器の中の聖と俗「音楽に息づく民族のプライド」(全4回)
第1回「I. 中央アジアの楽士たち ウズベキスタン」

12.4(月) 19:00

- 楽器博物館 展示室 ●全席自由:各回1,000円
- 講師:西岡信雄(大阪音楽大学名誉教授・浜松市楽器博物館名誉館長)
- 浜松市楽器博物館 TEL.053-451-1128

ACT CITY Premium Series
アクト・プレミアム・シリーズ2017
~世界の名演奏家たち~Vol.4

ゲヴァントハウス弦楽四重奏団

12.5(火) 19:00

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席指定:
S席6,000円
A席5,000円
学生席1,000円(24歳以下・当日指定)
- ※未就学児の入場不可
- 曲目:モーツァルト/弦楽四重奏曲 第21番 ニ長調 K.575「プロシヤ王第1番」
シューベルト/弦楽四重奏曲 第12番 短調 D.703(四重奏断章) ほか
- 文化事業課 TEL.053-451-1114 
- 特別協賛:オリックスグループ



©JENS GERBER

50th ANNIVERSARY
アクト・ワンコインコンサート2017
高木綾子(フルート)

12.7(木) 11:30(12:30終演予定)

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席自由:500円(チケットレス)
- ※当日会場入口にて入場料をお支払いください。
- ※満席となった際は入場をご遠慮いただく場合がございますので予めご了承ください。
- ※未就学児の入場不可
- 曲目:グルック/精霊の踊り
サン=サーンス/ロマン
J.S.バッハ/シャコンヌ(BWV1004より) ほか
- 文化事業課 TEL.053-451-1114



©FUMI

New Artist Series
アクト・ニューアーティスト・シリーズNo.111
「辻 奈奈 ヴァイオリン・リサイタル」

12.10(日) 15:00

- アクトシティ浜松 音楽工房ホール
- 全席自由:
一般2,500円
学生1,000円(24歳以下)
- ※未就学児の入場不可
- 曲目:
J.S.バッハ/無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第1番 短調 BWV1001
J.S.バッハ/無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第1番 短調 BWV1002 ほか
- 文化事業課 TEL.053-451-1114 
- 協賛:  HAMANA
浜名創包輸送株式会社



©大杉隼平

子ども音楽フェスティバル

12.10(日) 14:30

- 浜北文化センター 大ホール
- 入場無料
- 文化事業課
TEL.053-451-1150



楽器博物館講座

楽器の中の聖と俗「音楽に息づく民族のプライド」(全4回)
第2回「I. 中央アジアの楽士たち トルクメニスタン」

12.18(月) 19:00

- 楽器博物館 展示室 ● 全席自由: 各回1,000円
- 講師: 西岡信雄 (大阪音楽大学名誉教授・浜松市楽器博物館名誉館長)
- 浜松市楽器博物館 TEL.053-451-1128

ゆるやかコンサート冬

12.24(日) 10:30~11:20

- 浜北文化センター 小ホール
- 対象: 赤ちゃん、未就学児をお連れの方。大人のみでも構いません。
- 高校生以上 1人500円
子ども無料(同伴の0才~中学生)
- 出演: 田上知穂(ソプラノ)
平尾憲嗣(テノール)
平尾優理子(ピアノ)
- 浜北文化センター TEL.053-586-5151



MIBUワークショップ発表公演 Vol.15

12.24(日) モダンダンス13:30~/ミュージカル15:50~(予定)

- 天竜壬生ホール
- 全席自由: 一般700円 高校生以下500円(1公演につき)
- 天竜壬生ホール TEL.053-922-3301

佐藤典子舞踊生活70周年イベント
「アクトの丘にシヨパンを舞う」

12.26(火) 18:30

- アクトシティ浜松 大ホール
- 指定席: 3,000円 自由席: 2,000円
- 文化事業課 TEL.053-451-1151



シルク・ドゥ・ラ・シンフォニー

1.19(金) 19:00

- アクトシティ浜松 大ホール
- 全席指定:
S席8,000円
A席7,000円
B席5,500円
学生1,000円(24歳以下・当日指定)
- ※ 未就学児の入場不可
- 曲目:
チャイコフスキー/白鳥の湖
ビゼー/カルメン組曲
ハチャトゥリアン/「仮面舞踏会」組曲
オッフェンバック/天国と地獄 ほか
- 文化事業課
TEL.053-451-1114



ACTCITY Premium Series アクト・プレミアム・シリーズ2017
~世界の名演奏家たち~Vol.5

チヨ・ソンジン(ピアノ)

1.23(火) 19:00

- アクトシティ浜松 中ホール
- 全席指定:
S席5,000円
A席4,000円
学生席1,000円(24歳以下・当日指定)
- ※ 未就学児の入場不可
- 曲目:
ベートーヴェン/
ピアノ・ソナタ 第8番 八短調 Op.13「悲愴」
ベートーヴェン/ピアノ・ソナタ 第30番 小長調 Op.109
ドビュッシー/「映像」第2集
ショパン/ピアノ・ソナタ 第3番 短調 Op.58
- 文化事業課 TEL.053-451-1114
- 特別協賛: オリックスグループ



©Harald Hoffmann/DG

▼全ての情報はこちらから <http://www.hcf.or.jp/>佐藤典子舞踊生活70周年イベント
「アクトの丘にシヨパンを舞う」

12.26(火) 18:30

- アクトシティ浜松 大ホール
- 指定席: 3,000円 自由席: 2,000円
- 文化事業課 TEL.053-451-1151



アクトシティ浜松友の会
ビバーチェクラブ 会員募集中!!

◎電話、インターネットでチケット予約(お席を選ぶことができます)
◎一般発売前にチケットの優先販売
◎財団の指定公演は、会員お1人様1枚に限りチケット代10%割引
◎文化情報誌及び公演チラシの郵送 ほか

お問い合わせ先 TEL.053-451-1115 vivace@actcity.jp

チケット販売場所

アクトシティチケットセンター

HCFオンラインショップ <http://www.hcf.or.jp/>

チケットぴあ

この情報は2017年8月15日現在のものです。都合により日時、金額など変更になる場合もございますのであらかじめご了承ください。

THE 10th
HAMAMATSU
INTERNATIONAL
PIANO COMPETITION
Number of the World
Champion of the
International
Competition

第10回浜松国際ピアノコンクール いよいよ始動

去る6月7日、東京にて「第10回浜松国際ピアノコンクール」の記者会見を開催しました。小川典子審査委員長を中心に、コンクールに向けた準備が進んでいます。詳細は、公式ホームページ、フェイスブック、ツイッターなどでご案内していきます。小川典子審査委員長のインタビューは「HCFNews」Vol.25に掲載していますので、どうぞご覧ください。（『はまかるNEO』でもご覧いただけます）



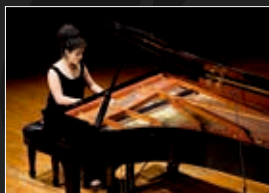
左から小川典子審査委員長、鈴木康友浜松市長、川村恒明運営委員長

今後のスケジュール

コンクールは2週間以上にわたる長丁場。栄冠を目指す長い道りをご紹介します。（写真は第9回コンクールより）



2018.11.8[木]
出場順抽選会



2018.11.9[金]～13[火]
第1次予選（中ホール）



2018.11.24[土]
表彰式（大ホール）

開催前
2017.6.7[水]
記者発表
2018.2.1[木]～4.15[日].....
申込受付
2018.5.21[月]～27[日].....
予備審査
2018.6.30[土].....
参加承認通知発送完了

開催期間
2018.11.7[水]
オープニングコンサート
（大ホール）

2018.11.15[木]～17[土]
第2次予選（中ホール）

2018.11.19[月]～20[火]
第3次予選（中ホール）



2018.11.6[火]～8[木]
出場者受付&ピアノ選び



2018.11.23[金]～24[土]
本選（大ホール）



2018.11.25[日]
入賞者披露演奏会（大ホール）

舞台袖

今夏も小学4～6年生の親子対象にアクトシティの裏側を巡った「アクトシティ大冒険」、実は隠れた人気イベント。大ホールの4面舞台にのって、2階席と同じ高さや地下3階の“奈落の底”まで上下したり、中ホールのパイプオルガンを目の前で眺めたり。他にも、地上212Mのヘリポートやホテルのスイートルーム見学など、たっぷり3時間の見て歩き。「アクト、楽しかったなあ！」家族の思い出がひとつ、増えてくれていたら嬉しいな。



アクトシティ浜松(施設のご予約)

〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1
TEL.053-451-1111 FAX.053-451-1123

アクトシティ浜松(事業のご案内)

〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1
TEL.053-451-1114 FAX.053-451-1123

浜松市アクトシティ音楽院

〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1
TEL.053-451-1150 FAX.053-451-1123



浜松市楽器博物館

〒430-7790
浜松市中区中央3-9-1
TEL.053-451-1128
FAX.053-451-1129



浜松文芸館

〒430-0916
浜松市中区早馬町2-1
クリエート浜松4・5階
TEL.053-453-3933
FAX.053-453-3933



クリエート浜松

〒430-0916
浜松市中区早馬町2-1
TEL.053-453-5311
FAX.053-453-5379



浜松市旧浜松銀行協会 (木下恵介記念館)

〒432-8025
浜松市中区栄町3-1
TEL.053-457-3450
FAX.053-457-3450



浜松科学館

〒430-0923
浜松市中区北寺島町256-3
TEL.053-454-0178
FAX.053-454-0184



浜松市浜北文化センター

〒434-0038
浜松市浜北区貴布祢291-1
TEL.053-586-5151
FAX.053-586-5153



浜松子ども館

〒430-0933
浜松市中区鍛冶町100-1
TEL.053-450-9111
FAX.053-458-0300



天竜壬生ホール

〒431-3314
浜松市天竜区二俣町二俣20-2
TEL.053-922-3301
FAX.053-922-3300